

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票(案)

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明			
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績		A	人員不足により実施できなかった
					資料総点数			
		2	収蔵資料の受入	今年度実績	3点	4		
				昨年度実績	1点			
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出(外部機関等展示等)	今年度実績	2件	4	
					昨年度実績	2件		
			4	館内利用(学術調査等)	今年度実績	6件	3	
					昨年度実績	8件		
		5	著作物資料への利用(出版物掲載等)	今年度実績	35件	2		
				昨年度実績	54件			
		調査研究	6	調査事業件数	件数	今年度実績	8件	4
						昨年度実績	8件	
7	共同調査事業件数		件数	今年度実績	0件	1		
				昨年度実績	0件			
8	研究成果の公開状況		論文研究報告	今年度実績	6件	3		
				昨年度実績	7件			
大項目 I の総合評価(A~E)						B		
博物館コメント	資料の活用にあたっては、博物館のデータベースや過去の企画展図録などに載った資料を手がかりとする場合が多いと思われる。データベース構築のための資料のデジタル化は、近年滞っていたので再開が急務であり、継続していく必要がある。							
有識者コメント	【黒田】資料の受入数などは、必ずしも昨年の実績より上回っていればよい項目ではないと思うので、目標値を達成する際に根拠となる数値をどこに設定するかを再検討してほしい。デジタル化は資料保存の観点からも急務であると考えられ、また上記の通り館内外の研究の促進の主要因であると思われる。研究資金を外部などから獲得するなど検討して要員を確保する方策を見出し、ぜひ早急に再開してほしい。 【戸枝】資料の館外活用については、博物館は受け身の形であり、件数の多少にこだわる必要はない。また寄託資料が多いことから協同研究を含め館外活用は難しいと思う。資料のデジタル化は上記に関わらず継続して下さい。							

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	今年度実績	108,572人	4	A
						昨年度実績	103,056人		
			2	企画展(事業名) 海路から広がったやぎもの一近世以降の	入館者数	今年度実績	13,665人	4	
		昨年度実績				13,940人			
		3	企画展(事業名)	入館者数	今年度実績				
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	今年度実績	3回	2	
						昨年度実績	4回		
			5	企画展(事業名) 海路から広がったやぎもの一近世以降の	実施回数	今年度実績	1回	4	
		昨年度実績	1回						
6	パネル展・昔のくらし展・コーナー展等	実施回数	今年度実績	5回	2				
昨年度実績	7回								
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度 「とっても良かった」 +「良かった」の割合	今年度実績			A	来館者アンケートには満足度を問う設問がないため、未記入	
				今年度実績	97%	4			
	9	パネル展・昔のくらし展・コーナー展等	今年度実績	96%	4				
大項目IIの総合評価(A~D)								A	
博物館コメント	来館者アンケートでは、当館の主たるテーマである「川に関わる文化・歴史」及び「関宿藩と関宿城の歴史」を学ぶために来館し、その2つのテーマに関する展示の充実を望む声が圧倒的多数である。								
有識者コメント	【黒田】来館者アンケートには満足度を問う項目を設けたほうが、目標値の設定がしやすいのではないと思う。展示替えの回数については人員的や日程、資料の問題もあることから、一概に多いほうが良いとは言えないが、何度も足を運ばせる動機付けにはなると思う。展示替えをしたことを効果的にアピールする工夫してほしい。 【戸枝】アンケート満足度が高いのは身近な展示資料、見やすい展示(目線、照明等)わかりやすい解説があったからだと思う。入館者増は収入増に反映されている。博物館コメントにあるように、館の主テーマや関連するテーマ、地域との密着したテーマでの展示を引き続き計画して下さい。過去の企画展も参考にして下さい。企画展に関するマスコミ露出も多く、入館者増に反映されていると思う。マスコミへの情報発信をとおして密接な関係を築いてください。								
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	今年度実績	103%	4	B
						昨年度実績	98%		
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	今年度実績	0件	1	
						昨年度実績	1件		
大項目IIIの総合評価(A~D)								B	
博物館コメント	入場料収入は、入館者増に伴い増加した。外部資金については、今年度(平成27年度)は採用されなかった。その理由としては、これまで支援申請をおこなってきた日本海事科学振興財団の支援対象内容(テーマ等)が当該年度より変更になった点が大きかったと考えられる。								
有識者コメント	【黒田】外部資金について、他館との情報共有なども含めて他資金の開拓も行ってほしい。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	今年度実績	203回	2	C
						昨年度実績	269回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	50,505件	3	
						昨年度実績	53,413件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	16件	2	
						昨年度実績	22件		
大項目IVの総合評価(A~D)							C		
博物館コメント	HPのアップ数のうち、昨年度分は「改良工事」により増加したものであり、今年度が実質的に下がっているとは言えない。取材件数及びHPへのアクセスがやや減ってきているのは、いくつかの要因が考えられるが、閲覧者の求めている情報を分析・整理する必要がある。								
有識者コメント	【黒田】評価数値だけを単純計算すれば、評価はほぼ達成(B)としてもよいと思うが、あえて低く評価したところに意気込みのようなものを感じた。改善策が上記のように明確にされているのであれば、その点を改善してほしい。 【戸枝】博物館コメントに同じ。マスコミの露出数が増えることとHPアクセス数との関係について、アンケートの来館者動機項目で調査したらいかがか。もう少し詳しく情報を求めてHPを利用すべき。								
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	19校	4	A
						昨年度実績	19校		
			2		入館者数	今年度実績	1361人	4	
						昨年度実績	1287人		
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	1249人	4	
						昨年度実績	1177人		
			4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	今年度実績	4校	4	
						昨年度実績	0校		
			5		利用者数	今年度実績	107人	4	
						昨年度実績	0人		
		地域関係団体との連携	6		団体数	今年度実績	14団体	3	
						昨年度実績	15団体		
			7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	今年度実績	14回	3	
						昨年度実績	15回		
8			利用者数	今年度実績	321人	2			
				昨年度実績	473人				
9	友の会活動	利用人数	今年度実績	76人	3				
			昨年度実績	79人					
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	347人	3				
			昨年度実績	349人					
大項目Vの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	大学、NPO等には、大学と歴史研究団体・自然観察団体等の利用をカウントした。学校との連携においては、昨年度と同様回数利用があった。今後も学校側と連携をとりながら、見学をしやすくするプログラム開発や、利用方法等について検討していきたい。地域関係団体との連携については、今後どのような団体とどのような連携ができるかから検討していきたい。								
有識者コメント	【黒田】県内に限らず、隣接県や利根川沿いの各博物館や、研究上つながりのある研究機関なども視野に入れて検討してほしい。 【戸枝】学校利用数については、連携を密にし、リピート性を大切にしたい。利用団体の属性を分析し、広報活動に利用されたい。地域関係団体との連携は地域にどのような活動をする団体、同好会、研究会があるのかを日ごろから情報収集する必要がある。地域の各種イベントなどを見学、参考することも情報収集には必要だと思う。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値				
VI	教育・普及活動	来館状況	1	歴史講座	参加者数	今年度実績	178人	4	A	
						昨年度実績	98人			
			2	講座	郷土食講座	参加者数	今年度実績	241人		4
							昨年度実績	208人		
			3	博物館セミナー	参加者数	今年度実績	137人	3		
						昨年度実績	142人			
			4	体験教室	城下を歩こう	参加者数	今年度実績	132人		4
							昨年度実績	116人		
		5	体験教室	河川敷のいきものさがし	参加者数	今年度実績	27人	4		
						昨年度実績	2人			
		6	体験教室	飛ばせ水口ケツ	参加者数	今年度実績	17人	4		
						昨年度実績	9人			
		7	野外講座(歴史散歩)	参加者数	今年度実績	38人	4			
					昨年度実績	24人				
		8	歴史講座(企画展)	参加者数	今年度実績	22人	2			
					昨年度実績	40人				
		総合的な満足度	9	講座	歴史講座	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	100%	4	A
今年度実績	99%									
今年度実績	90%									
12	体験教室		城下を歩こう	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	100%	4			
					今年度実績	100%				
					今年度実績	100%				
13	体験教室		河川敷のいきものさがし	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	85%	4			
		今年度実績			87%					
14	体験教室	飛ばせ水口ケツ	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	85%	4				
				今年度実績	87%					
15	野外講座(歴史散歩)	参加者数	今年度実績	6件	2	C	回答記録が残るものだけの数。実際には5倍ぐらいの問合せ数がある。			
			昨年度実績	8件						
16	歴史講座(企画展)	参加者数	今年度実績	6件	2	C				
			昨年度実績	8件						
17	利用状況	相談件数(来館、メール、電話等)	利用件数	今年度実績	6件	2		C		
昨年度実績	8件									
大項目VIの総合評価(A~D)								A		
博物館コメント	当館は歴史系博物館のイメージが確立されており、歴史や郷土に関係した普及事業に参加者が集まる傾向が強い。一方、参加者は少ないが、自然系の普及活動も継続し、館周囲の自然環境等の魅力についても伝えていく必要がある。									
有識者コメント	【黒田】参加人数、満足度とも高い水準を維持できていることはとても素晴らしいと思う。参加者が教室後に展示室を訪れる、別の日に来館するという行動につながるような、展示との関連付けも意識してほしい。相談や問い合わせへの対応は、展示や館の状況改善につながったり、今後の問い合わせ対応の簡略化にもつながっていくことだと思うので、記録はなるべく系統立てて保存する方針を取ったほうが良いのではと感じた。 【戸枝】各普及活動は、順調に実施されていると思う。今後も開催日時などを考慮して実施して欲しい。また参加者の属性を分析し、広報活動の参考とし、新たな参加者獲得をするのと同時にリピーターの増に心がけてほしい。館外普及活動については十分な下見と参加者保険をかけてほしい。相談・質問などの件数、内容はできるだけ記録し、企画展や普及活動のきっかけとなるかもしれない。									
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	今年度実績	1人		2	B	
					昨年度実績	2人				
			2	教員等の研修	今年度実績	0人		1		
					昨年度実績	4人				
		3	職場体験	今年度実績	6人	4				
				昨年度実績	6人					
4	インターシップ	今年度実績	2人	4						
		昨年度実績	0人							
5	安全管理	研修会の開催	実施回数	今年度実績	0回	1	B			
				昨年度実績	0回					
6	安全管理	防災訓練実施等	実施回数	今年度実績	1回	4				
				昨年度実績	1回					
大項目VIIの総合評価(A~D)								B		
博物館コメント	実習等については安定して受け入れることが望ましいが、職員数が少ない小規模館でもあるので、あまり多く増やすことはできない。									

分類	大項目	中項目	小項目		達成 状況	総合 評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]	値の説明 数値			
	有識者コメント		<p>【黒田】大項目 I と同様に、昨年より上回っていれば良い、という項目ではなく、実際の申し入れに対してどれほど答えることができたか、で評価すべきではないかと思う。</p> <p>【戸枝】博物館実習は、館の立地条件から通える手段をもち、かつ館の主テーマに沿った学生になるだろう。希望があれば館業務と調整の上で受け入れてほしい。その他の実習・研修については、希望者は地元及び近隣の人に限定されるが、希望があれば受け入れてほしい。</p>				

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明			
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	52団体	3	B
					昨年度実績	57団体		
			2		今年度実績	1787人	4	
					昨年度実績	1728人		
			3	外国人来館入込	今年度実績	0団体	1	
					昨年度実績	0団体		
			4		今年度実績	312人	4	
					昨年度実績	200人		
大項目Ⅷの総合評価(A~D)						B		
博物館コメント	当館は、立地の地理的環境から県外来館者数が多い。圏央道が全通すれば、さらに集客が期待される。							
有識者コメント	【黒田】観光客、とくに団体がどういう行程で館を訪れるのかを調査することが必要と思われる。また、外国人来館者の増加傾向は喜ばしい状況にあるが、今後も維持できるように細やかな対応を行ってほしい。							
総合評価(A~D) [各達成度の平均]						B		
総合評価と次年度への対策	<p>【総合評価】</p> <p>○来館者の多くは、当館の主たる展示・研究テーマである「川に関わる文化・歴史(河川とそれにかかわる産業)」及び「関宿藩と関宿城の歴史(関宿藩と関宿)」を学ぶことを望み、そのテーマに関する展示の充実を望んでいる。また、普及事業においても歴史系や郷土に関するものについては安定した参加者がある。これは、長い間に積み重ねてきたものが定着してきたものと考えられる。</p> <p>【次年度への対策】</p> <p>○ホームページでは閲覧者の求めている情報を整理分析し、情報を発信する必要がある。それにより展示や普及事業の充実につなげていく。</p> <p>○資料のデジタル化の整備を進めることで、館外貸出等の利便性・活用が向上すると思われる。</p> <p>○地域関係団体との連携を深めていく。これには各種展示事業や普及事業について、中長期的な計画を立てることも必要と思われる。</p>							

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	<p>【黒田】</p> <p>来館者や企画展、教育関連事業など、多くの項目で目標を達成、あるいは達成に近い実績が示されたことは素晴らしいと思う。</p> <p>評価の低い項目については上記の対策をぜひ行ってほしい。来館者増の要因として口頭で挙げられていたサイクリストなど、対象を絞った広報の新規開拓を継続して行くことも考えてほしい。目標値の設定について、項目によっては前年度実績をそのままスライドさせてもあまり意味がないと思われるものがある。次年度からは検討の材料にしてほしい。</p> <p>【戸枝】</p> <p>企画展、各種普及活動においても活動の成果が表れていると思う。今後も館の主テーマに沿った活動を期待する。博物館コメントに同じで、来館者に対しての各種の調査を実施し、活動の基にして欲しい。館員の移動により地域との連携が薄れることのないよう、関係の継続に努めてほしい。</p>
-------------	--

【博物館記入】

意見への対応	<p>資料のデジタル化は、早急に要員について検討しながら、現状で少しずつでも進めていきたい。また広報活動として、ホームページを充実させて活用するのはもちろんだが、事業の内容や目的別に広報する相手を絞って、提供する内容に変化をつけるなどの工夫も行ないたい。そのためには、目的をもった広報を行ない、それが達成できたかどうかの調査を行ない成果と方法を繰り返し見直しながらやっていきたい。</p> <p>地域関係団体との連携については、こことならこういうことができるというような情報収集に努め、連携することで生まれる有益性や発展性について考えながら、進めていきたい。来館者アンケートの設問項目に満足度を問う項目は既に追加しており、館に対する相談や質問についても記録を取るよう改善を行なった。これら利用者からの声は全て、館の事業の企画や活動に重要な情報源であることを再認識し、目的を定めて活用していきたい。</p>
--------	--